



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便り増刊号
令和6年 8月 9日(金)
編集・発行責任者 校長 池田敏典
E-mail e52nagasaki-city.ed.jp
G-mail nijigaoka@gmail.com

イソップ物語「キツネとツル」より

ある日、ツルがえさを探していました。そこへキツネが近づいてきて、「ツルさん、お腹が空いているなら私の家に来ませんか。御馳走しますよ。」と言いました。ツルは喜んでキツネの家へ行きました。

キツネは、浅い皿に料理を薄くのばして差し出します。「ツルさんは硬いものが食べられないでしょうからスープにしました。どうぞ召し上がれ。」しかし、ツルの長いくちばしでは、どうしても食べることができません。キツネは、さも残念そうに、「お口に合いませんでしたか。では、私が代わりにいただきます。」と言い、ツルの分まで食べてしまいました。いつまでも笑っているキツネの様子に、ツルはからかわれたことに気付き、悔しくてたまりませんでした。

数日後、ツルはキツネに出会いました。「キツネさん、とてもおいしい食べ物が手に入りました。御馳走しますので、私の家へ来ませんか。」と誘いました。

ツルは、細長い壺の中に料理を入れてキツネの前に差し出しました。とてもいいにおいがしますが、キツネは壺の中に口を入れることができません。どうにかして食べようと、壺の周りをぐるぐる回ります。

それを見てツルは、「食事中になんて踊っているの？食べ終わってから踊りなさいよ。」とからかいました。キツネは悔しくて泣きながら帰りました。

子どもの頃に読んだお話です。皆様も御存じではないでしょうか。その時に深く読めたわけではないのですが、子ども心に、なんとなく「人に意地悪をすると、いつか自分にも返ってくるんだ」といった思いをもった記憶があります。

さて、大人になった今、あらためて考えさせられることがあります。それは、悪い報いを受けるのはキツネだけなのかということです。最初からかわれたのは確かにツルではありますが、仕返しを

したことで、キツネと同類ということになるのではないのでしょうか。もしかすると、この後、キツネが更に仕返しをするかもしれません。これがエスカレートして大きな争いに発展するかもしれません。

この物語は、人間同士の醜い姿を現しているように思えます。

「人に意地悪したら、報いが自分に返ってくる。」

「仕返しをしたら、報いが自分に返ってくる。」

誰もがこうした思いをもって人に接したら、みんなが“うるとらはっぴい！”な世の中になるのでしょうか。

謝る時、お礼を言う時は心から

「ごめんなさい」、そして、「ありがとう」「お願いします」といった言葉は、周囲の人と良い関係を築くのにとっても大切なものだと思います。

私事で恐縮ですが、夏休みに入って、けがをしてしまいました。右腕をギプスで固定して生活する日が続きました。その間、家内にはいつも以上にお世話になりました。朝、出勤する前にギプスをはめ直すのに包帯で巻いてもらったり、入浴時には背中を洗ってもらったり、食事に関しては、箸ではなくスプーンやフォークで食べられるものを用意してもらったりしました。つくづく、人は一人では生きていけないと思ったものでした。

私たちは、様々な面で人にお世話になり、時には知らず知らずのうちに迷惑をかけて生活しています。「ごめんなさい」「ありがとう」「お願いします」は、人間関係の潤滑油であります。しかし、ただ言えればいいというものでもありません。最も大切なことは、心が伴っていることです。“以心伝心”という言葉が表すように、心は相手に伝わりますよね。

私たち大人は、子どもたちを躰ける立場ではありますが、だからこそ、何か過ちをしたときは「ごめんなさい」、何かをしてもらいたいときは「お願いします」、何かをしてもらったときは「ありがとう」と、はっきりと言える大人でなければと思います。それが、人に対して感謝と尊敬の念をもって、一人一人の人を大切にする気持ちにつながっていくのだらうと思います。

けがが治るまで、家内には「お願いします」「ありがとう」の毎朝でした。正直、ふだん、あまり言ってなかった分、照れくさい感じでしたが、もしかすると、家内に対する天からの報いとしてけがをすることになったのかもしれないと、自省する夏休み前半でした。

